

2017年3月期(平成29年3月期) 第2四半期決算説明会

2016年11月24日(木)
株式会社エスライン
名古屋証券取引所第二部
【証券コード:9078】

業績概要 (2017年3月期 第2四半期決算概要)

- 『物流サービス開発センター』部門の活動を開始
- 三河安城支店を豊田支店として移転リニューアル
- 物流倉庫として、豊田センターを新築
- 菓子卸問屋様の一貫物流サービスを受託し、稼働開始
- 幹線便に通信型デジタルタコグラフを導入
それにあわせて、一部車両に眠気検知システムを導入
- 簡易株式交換による連結子会社2社の完全子会社化を実施



エスラインギフ豊田支店(住所:愛知県豊田市福受町)
(敷地面積:6,285.71㎡)



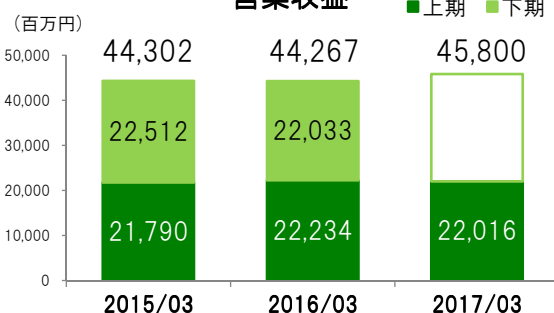
エスラインギフ豊田センター(豊田支店隣接)
(2階建 倉庫延べ床面積:4,187.11㎡)

2017年3月期 第2四半期連結決算概要

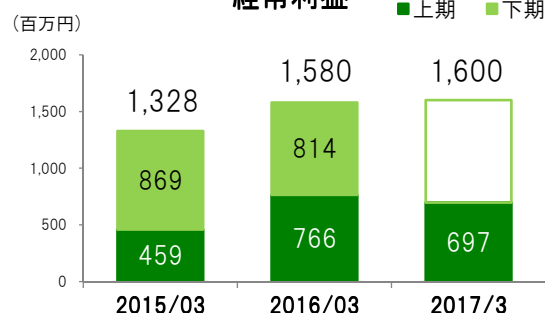
(百万円)

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期				
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期				通期
					予想	実績	前期比	予想比	
営業収益	21,790	44,302	22,234	44,267	22,800	22,016	▲1.0%	▲3.4%	45,800
営業総利益	1,211	2,897	1,510	3,100	1,530	1,453	▲3.8%	▲5.0%	3,180
(営業総利益率)	(5.6%)	(6.5%)	(6.8%)	(7.0%)	(6.7%)	(6.6%)	—	—	(6.9%)
販売費及び一般管理費	820	1,657	785	1,597	800	799	1.7%	▲0.1%	1,650
営業利益	391	1,240	724	1,503	730	654	▲9.8%	▲10.4%	1,530
(営業利益率)	(1.8%)	(2.8%)	(3.3%)	(3.4%)	(3.2%)	(3.0%)	—	—	(3.3%)
経常利益	459	1,328	766	1,580	770	697	▲9.0%	▲9.5%	1,600
(経常利益率)	(2.1%)	(3.0%)	(3.4%)	(3.6%)	(3.4%)	(3.2%)	—	—	(3.5%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	254	1,595	515	1,123	520	470	▲8.8%	▲9.6%	1,125

営業収益



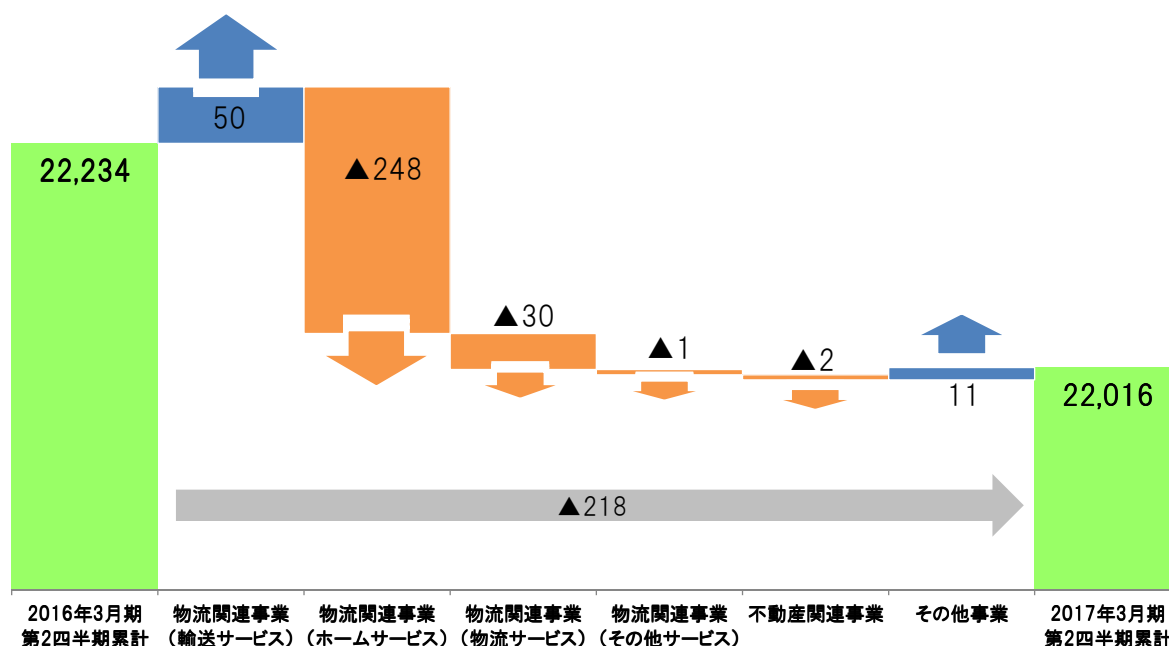
経常利益



営業収益の増減要因（連結）



（百万円）

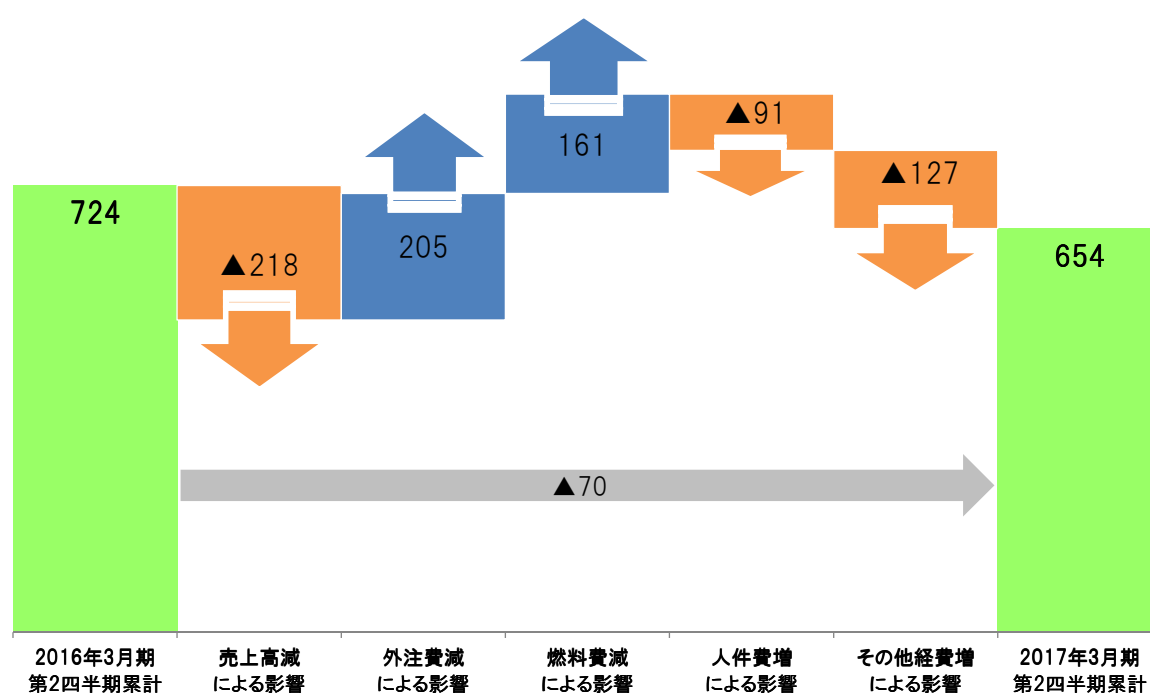


4

営業利益の増減要因（連結）



（百万円）

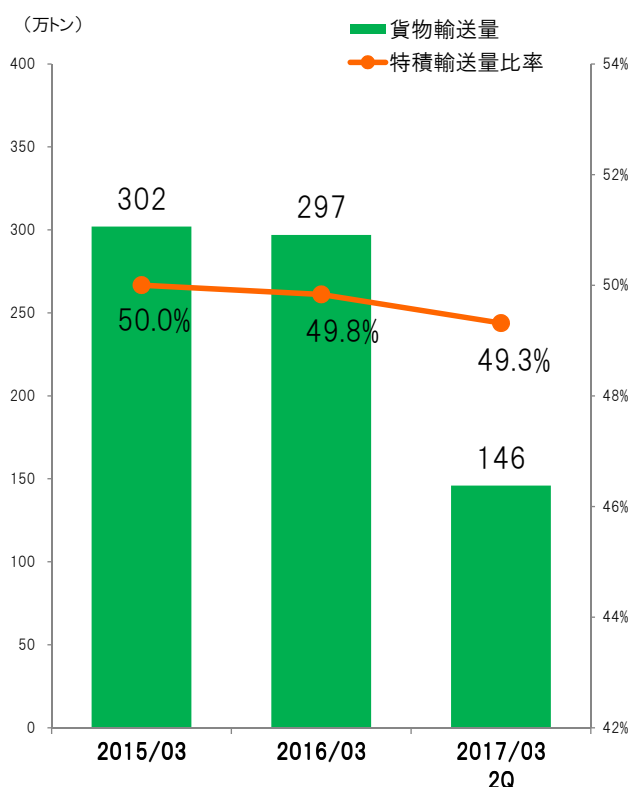


5

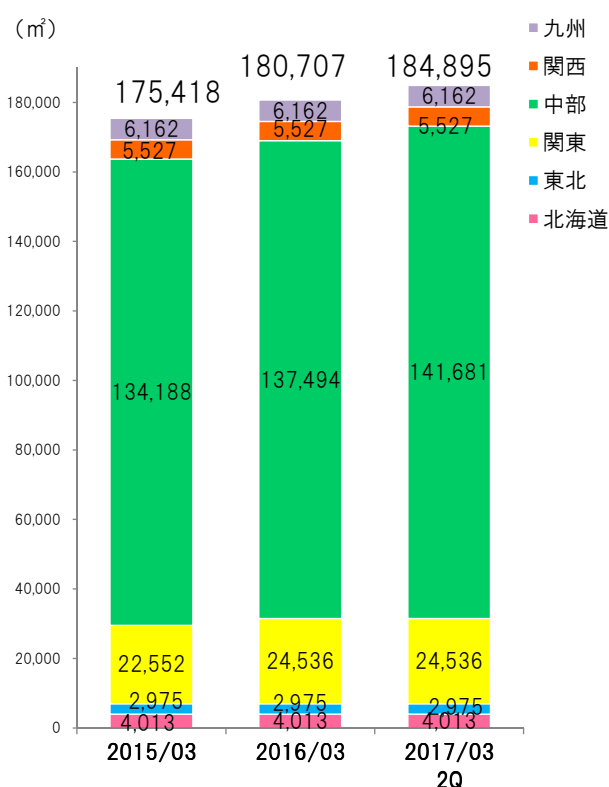
貨物輸送量と保管施設の状況



貨物輸送量と特積比率



保管施設の延床面積



6

セグメントの状況：営業収益



(百万円)

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期				
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期				通期
					予想	実績	(前期比)	(予想比)	
営業収益	21,790	44,302	22,234	44,267	22,800	22,016	▲1.0%	▲3.4%	45,800
物流関連事業	21,426	43,574	21,807	43,417	22,362	21,578	▲1.1%	▲3.5%	44,920
輸送サービス	16,537	33,489	16,627	34,365	17,065	16,677	0.3%	▲2.3%	34,407
ホームサービス	2,470	4,908	2,531	4,343	2,551	2,283	▲9.8%	▲10.5%	4,479
物流サービス	2,334	5,003	2,562	4,519	2,660	2,532	▲1.2%	▲4.8%	5,847
その他サービス	85	175	86	190	86	86	▲0.0%	▲0.1%	186
不動産関連事業	201	400	239	478	246	237	▲0.6%	▲3.4%	495
その他事業	163	327	187	371	192	199	6.3%	4.0%	385

7

セグメントの状況：営業利益



(百万円)

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期				
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期				通期
					予想	実績	(前期比)	(予想比)	
営業利益	391	1,240	724	1,503	730	654	▲9.8%	▲10.4%	1,530
セグメント利益	746	1,951	1,062	2,117	1,050	962	▲9.4%	▲8.4%	2,150
物流関連事業	615	1,676	884	1,772	874	771	▲12.7%	▲11.8%	1,797
輸送サービス	557	1,475	736	1,645	723	558	▲24.2%	▲22.8%	1,488
ホームサービス	▲9	▲27	47	▲25	49	40	▲14.9%	▲18.4%	96
物流サービス	61	211	93	138	94	158	69.9%	68.1%	195
その他サービス	6	17	8	15	8	15	87.5%	87.5%	18
不動産関連事業	102	207	124	251	125	125	1.2%	0.0%	251
その他事業	28	68	54	93	51	65	20.9%	27.5%	102
調整額(本社経費)	▲355	▲714	▲337	▲614	▲320	▲308	8.6%	3.8%	▲620

8

連結貸借対照表の概要



(百万円)

	2016年3月期		2017年3月期 第2四半期末	増減額
	第2四半期	期末		
流動資産	9,449	9,338	9,237	▲151
固定資産	21,792	22,386	22,924	537
資産の部合計	31,241	31,775	32,161	386
流動負債	7,031	7,284	7,481	197
固定負債	6,283	6,543	6,948	405
負債の部合計	13,315	13,827	14,430	602
株主資本	16,893	17,454	17,981	526
非支配持分	762	778	36	▲741
純資産の部合計	17,926	17,947	17,731	▲216
負債及び純資産合計	31,241	31,775	32,161	386
自己資本比率	54.9%	54.0%	55.0%	—

9

連結キャッシュフローの概要



(百万円)

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	954	2,424	1,116	2,232	894	▲221
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲676	▲1,740	▲226	▲1,698	▲1,234	▲968
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲96	0	▲435	▲527	311	746
現金及び現金同等物の増減	181	684	415	6	▲27	—
現金及び現金同等物の期首残高	2,741	2,741	3,425	3,425	3,051	▲374
現金及び現金同等物の期末残高	2,922	3,425	3,460	3,051	3,024	▲436
設備投資費	927	2,239	450	2,219	1,265	815
減価償却費	625	1,285	598	1,267	702	104

10

2017年3月期上半期の取り組み事項



■物流関連事業

重点項目	結果
輸送サービス - 幹線ネットワーク機能の見直し - 幹線輸送の積載効率化とネットワークの見直し - 貸切市場のリサーチと営業方針づくり	- 豊田支店の移設による営業強化 (株)エスラインギフの東日本・中部・西日本の3本部に「貸切・引越担当」部門を設置し、貸切貨物の拡大を図った
ホームサービス - 不採算事業の見直し 「ホームサービス事業」のビジネスモデルづくり - 当社ネットワークを活かした広域引っ越しサービスの構築	(株)エスラインギフ三河センターと(株)スリーエス物流豊田営業所を統合し、効率化を図った - 中部地区に出店した大型家具店の配送業務やオフィス家具の配送設置業務の新規受託により「ツーマン配送業務」の取扱量が拡大
物流サービス - 物流サービスのメニュー化と各サービスの特徴づくり - 物流加工業務に精通した人材づくり - 既存施設での荷主特化型物流センターの立ち上げ	(株)スリーエス物流において、菓子卸問屋の商品保管・加工から物流センターへの配送までを行う一貫物流サービスを開始

■不動産関連事業

(株)エスラインギフ施設の賃貸	旧三河安城支店の施設の賃貸開始
---	---

■その他事業

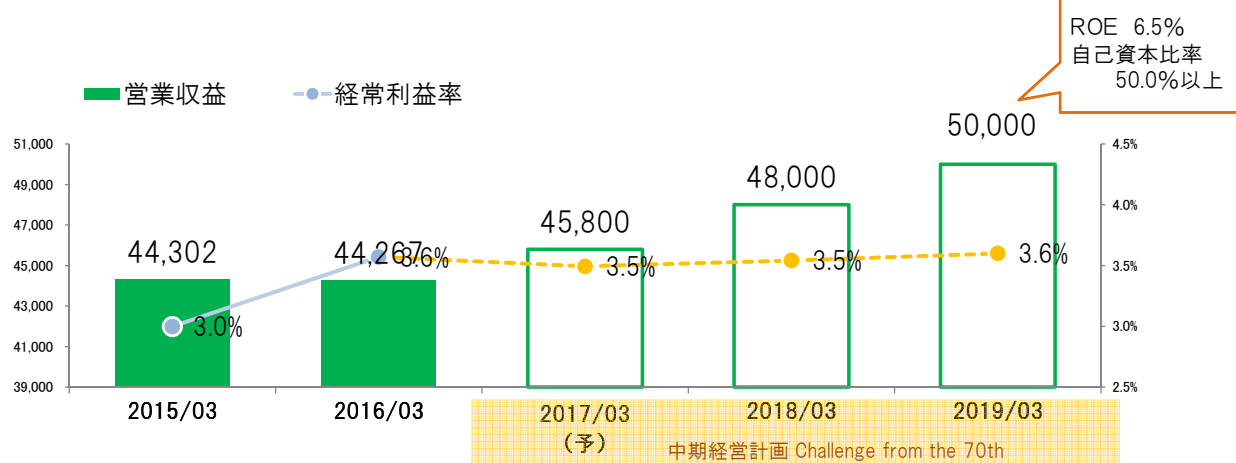
発電施設の新設	(株)エスラインギフ豊田支店に太陽光パネルを設置し、売電事業を開始 (発電施設:5カ所、総発電量:約1,200kw)
---	--

11

中期経営計画の進捗状況

12

中期経営計画: 『エスラインブランドの確立に向けて』 **エスライン**



			(百万円)		
			2016年3月期(実績)	2017年3月期(予想)	2019年3月期(目標)
営業収益			44,267	45,800	50,000
物流関連事業	貨物自動車運送事業	輸送サービス	34,365	34,407	37,000
		ホームサービス	4,343	4,479	5,000
	倉庫業	物流サービス	4,519	5,847	6,955
	その他サービス		190	186	200
			43,417	44,920	49,155
不動産関連事業			478	495	443
その他事業			371	385	402
経常利益			1,580	1,600	1,800

13

物流サービス開発センターの開設

輸送・物流の両サービスの更なる拡大と質の向上を図る

専門知識や物流ノウハウを有したエスライングループ社員による、4つのWG(ワーキンググループ)を立ち上げ、実行計画の策定

輸送サービスWG 「フォワーダ事業」の取り組みによる 物量の確保と収益拡大 - 幹線輸送の積載効率の向上やネットワークを見直し、貸切など輸送サービスを強化 - 関東・中部・関西の3拠点での中小ロット貨物の獲得により、エスライングループ内の貸切車両の積載効率を向上 - 受注機能強化と総合配車機能を拡充するため、総合配車センター準備室を設立	物流サービスWG 保管、物流加工、配送に至る一貫物流サービスの提供によりエスライングループにおける物流サービス機能を強化 - 物流サービス機構を立ち上げ、エスライングループでの物流サービスのノウハウ共有や人材を活用 - 第一弾として中部地区において、衣料品の物流加工業務の獲得
ホームサービスWG 「宅配サービス」の強化 ツーマン配送業務をベースに 大型貨物宅配や付加価値サービスを検討 - 低利益率な配送のみの「宅内サービス」の営業拡大ではなく、エスライングループの強みであるネットワークや保管施設といった物流インフラを活用 - 家電量販店、大型家具店、ネット通販会社などへの営業展開を図り、高利益率な一貫物流サービスを展開	引越サービスWG 引越サービスの拡大と事業化を推進 - スワロー引越便推進室の立ち上げ 3月の繁忙時期までにエスライングループ内外ヘスワロー引越便の認知を高めることを目指す マニュアル等ツールの整備やチラシの配布 引越スタッフ会議の実施 引越便の商品企画、商品開発、資材の研究、宣伝活動、人材育成等

行動
計画

14

業績予想 (2017年3月期 通期業績予想)

15

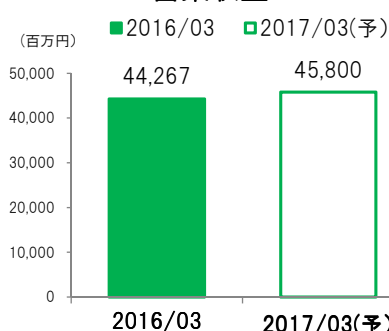


『70周年に向けグループ総合力で新たな挑戦』

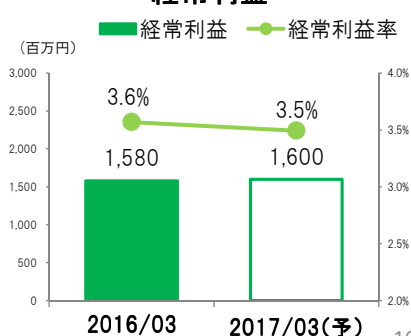
(百万円)

	2016年3月期		2017年3月期		
	第2Q実績	通期実績	第2Q実績	通期(予想)	(前期比)
営業収益	22,234	44,267	22,016	45,800	3.5%
物流関連事業	21,807	43,418	21,578	44,920	3.5%
輸送サービス	16,627	34,365	16,677	34,407	0.1%
ホームサービス	2,531	4,343	2,284	4,479	3.1%
物流サービス	2,562	4,519	2,532	5,847	29.4%
その他サービス	86	190	86	186	▲2.1%
不動産関連事業	239	478	237	495	3.6%
その他事業	188	371	199	385	3.8%
営業利益	724	1,503	654	1,530	1.8%
経常利益	766	1,580	697	1,600	1.3%
当期純利益	515	1,123	470	1,125	0.2%
設備投資費	450	2,219	1,200	2,354	6.1%
減価償却費	598	1,267	702	1,483	17.0%

営業収益



経常利益

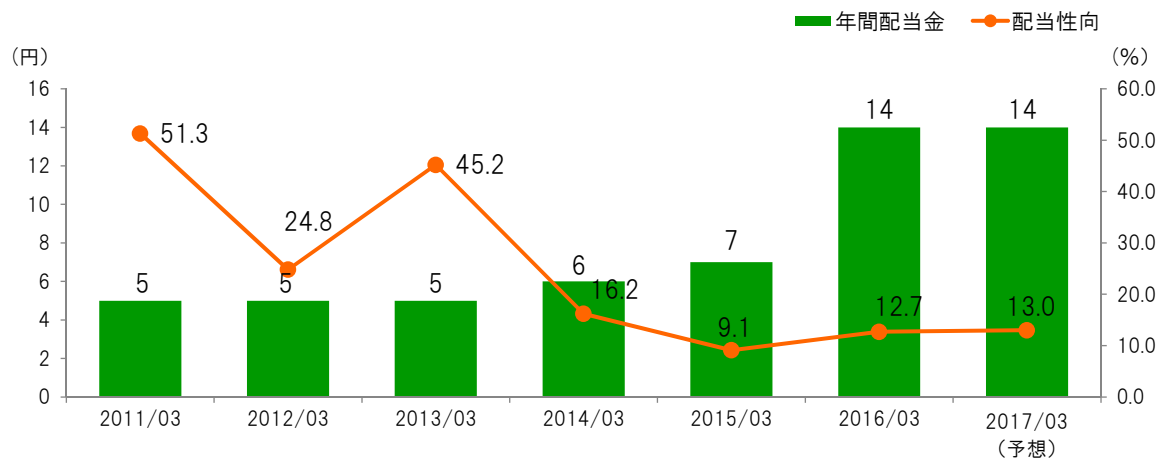


16

2017年3月期下半期の重点項目

物流関連事業	輸送サービス	➢ 中小ロット貨物の掘り起しによる物量拡大 ➢ 「フォワーダ事業」に取り組み、エスライングループ全社の車両の有効活用を図る ➢ 中部地区におけるエスライングループの配送拠点を活かした輸送サービスの展開 (事務用品の岐阜県下一括配送の受託、三河地区の小口配送の受託)
	ホームサービス	➢ 「ツーマン配送業務」の荷主開拓と配送エリアの拡大(関西地区) ➢ 「単身パック(小規模の幹線輸送を伴う引越サービス)」の全社取り組み
	物流サービス	➢ 量販店向け衣料品ベンダーの開拓 ➢ 自動車ディーラーが受託している、自家用車タイヤ保管業務の拡大
	その他サービス	➢ 自動車整備事業: 車両点検・車両整備サービスの他社ユーザーへの拡販 ➢ 情報処理サービス: 受発注センター業務の他業態への水平展開
その他事業		➢ (株)エスラインギフ豊田センターへの太陽光パネルの新設(売電事業)
全体		➢ 車両の入替 ➢ 施設改修(株)エスライン羽島、(株)エスライン各務原) ➢ 通信型デジタルタコグラフの活用による運行コースの最適化や安全運転、経済運転の推進 ➢ エスライングループ統一の債務システム、人事管理システムの導入

- 利益配当は、事業の効率化及び拡大に必要な内部留保の充実を勘案しつつ、安定的な配当の継続と、業績に応じた成果配分を行うことを基本方針とし、配当性向は20%を目標としています。



※ 弊社は2015年10月1日を効力発生日とした普通株式2株を1株の割合で株式併合を実施しております。

- 2017年3月31日現在に単元(100株)以上保有されている株主様を対象に株主優待(クオカード1,000円分)を実施します。

100株以上

クオカード 1,000円分



18

参考データ集

19

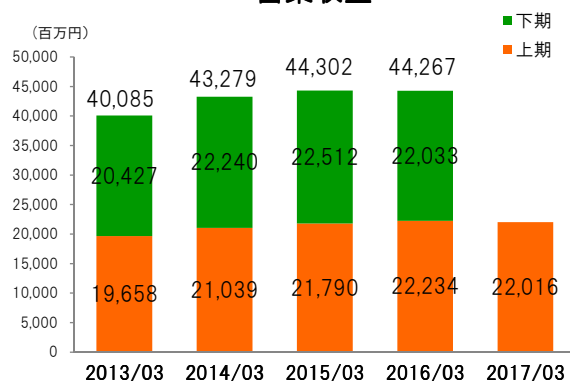
連結業績推移



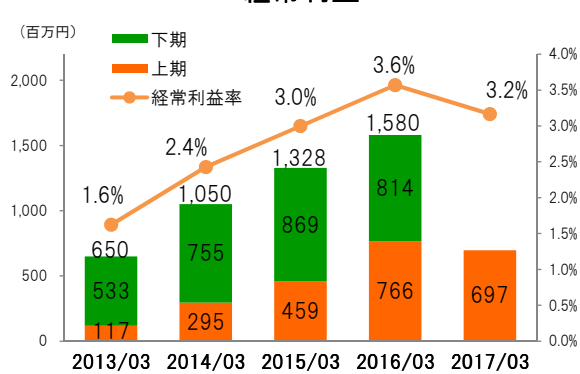
(百万円)

	2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業収益	19,658	40,085	21,039	43,279	21,790	44,302	22,234	44,267	22,016	—
営業総利益	850	2,084	1,035	2,552	1,211	2,897	1,510	3,100	1,453	—
(営業総利益率)	(4.3%)	(5.2%)	(4.9%)	(5.9%)	(5.6%)	(6.5%)	(6.8%)	(7.0%)	(6.6%)	—
販管費	810	1,560	799	1,606	820	1,657	785	1,597	799	—
営業利益	39	523	236	945	391	1,240	724	1,503	654	—
(営業利益率)	(0.2%)	(1.3%)	(1.1%)	(2.2%)	(1.8%)	(2.8%)	(3.3%)	(3.4%)	(3.0%)	—
経常利益	117	650	295	1,050	459	1,328	766	1,580	697	—
(経常利益率)	(0.6%)	(1.6%)	(1.4%)	(2.4%)	(2.1%)	(3.0%)	(3.4%)	(3.6%)	(3.2%)	—
当期純利益	▲66	230	152	771	254	1,595	515	1,123	470	—

営業収益



経常利益



20

連結業績推移



(百万円)

	2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業収益	19,658	40,085	21,039	43,279	21,790	44,303	22,234	44,267	22,016	—
物流関連事業	19,313	39,390	20,687	42,573	21,426	43,575	21,807	43,417	21,578	—
貨物自動車輸送事業	15,148	30,801	15,862	32,505	16,537	33,489	16,627	34,365	16,677	—
倉庫業	2,445	4,988	2,683	5,523	2,470	4,908	2,531	4,343	2,284	—
その他サービス	1,637	3,431	2,035	4,323	2,334	5,003	2,562	4,519	2,532	—
不動産関連事業	83	171	107	222	85	175	86	190	86	—
その他事業	194	392	199	402	201	400	239	478	237	—
調整額(本社経費)	149	303	152	304	163	327	187	371	199	—

	2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業利益	39	523	236	945	391	1,240	736	1,503	654	—
セグメント利益	402	1,225	600	1,666	746	1,951	1,063	2,117	962	—
物流関連事業	282	987	484	1,431	615	1,676	884	1,772	771	—
貨物自動車輸送事業	315	1,079	428	1,250	557	1,475	736	1,645	558	—
倉庫業	▲41	▲144	24	71	▲9	▲27	47	▲25	40	—
その他サービス	10	36	26	90	61	211	93	138	158	—
不動産関連事業	▲2	16	6	20	6	17	8	15	15	—
その他事業	95	192	99	201	102	207	124	251	125	—
調整額(本社経費)	24	46	15	33	28	68	54	93	65	—
調整額(本社経費)	▲362	▲701	▲363	▲720	▲355	▲714	▲337	▲614	▲308	—

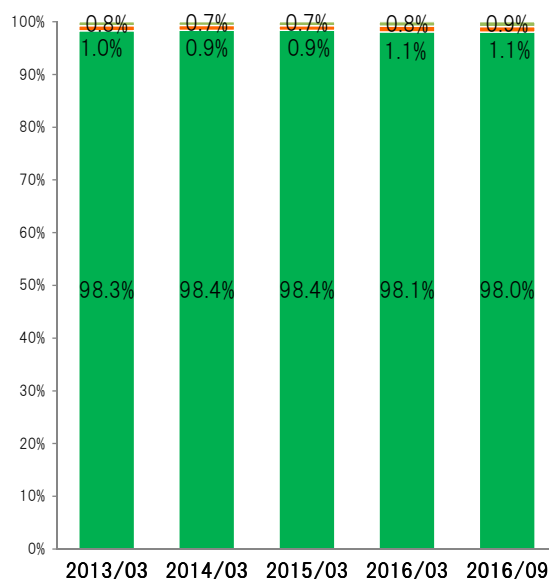
21

連結業績推移（セグメント別比率）



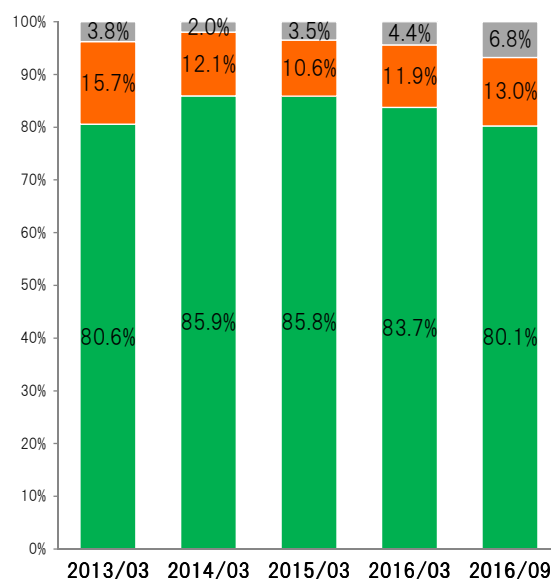
営業収益

■ 物流関連事業 ■ 不動産関連事業 ■ その他



セグメント利益

■ 物流関連事業 ■ 不動産関連事業 ■ その他



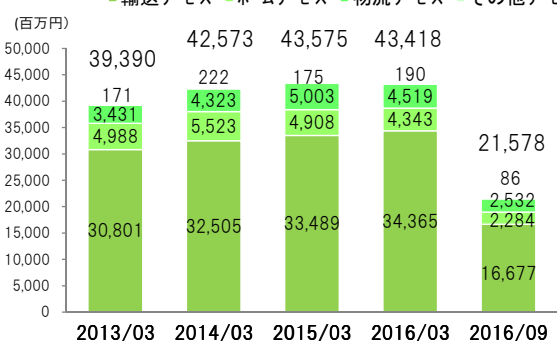
22

各セグメント状況（営業収益）



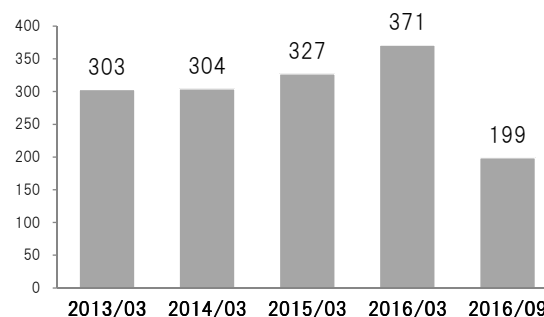
物流関連事業

■ 輸送サービス ■ ホームサービス ■ 物流サービス ■ その他サービス



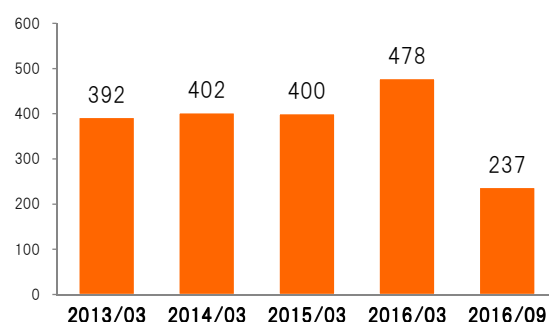
その他関連事業

(百万円)



不動産関連事業

(百万円)

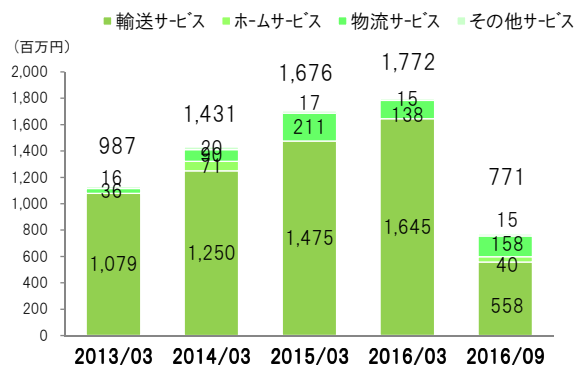


23

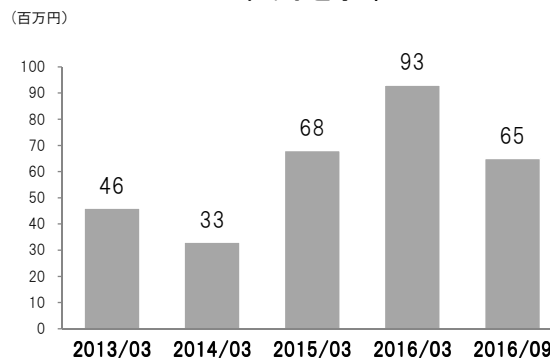
各セグメント状況（セグメント利益）



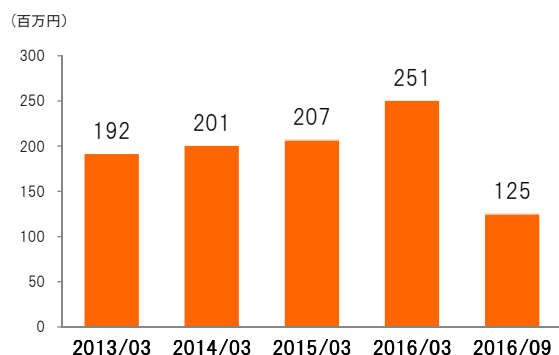
物流関連事業



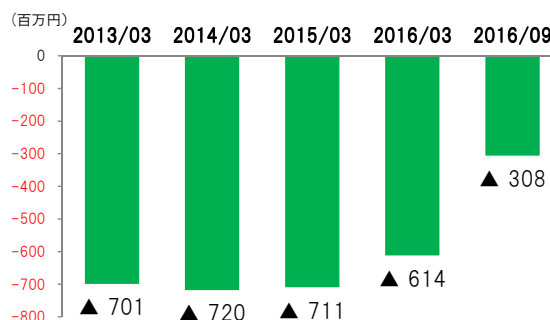
その他関連事業



不動産関連事業



調整額(本社経費)



24

連結財務推移



(百万円)

	2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
流動資産	7,475	8,073	8,039	9,318	9,296	10,027	9,449	9,338	9,237	—
固定資産	19,820	20,149	20,359	20,873	21,327	21,475	21,792	22,386	22,924	—
資産の部合計	27,295	28,222	28,398	30,192	30,624	31,502	31,241	31,775	32,161	—
流動負債	6,490	6,849	6,936	7,726	7,921	7,777	7,031	7,284	7,481	—
固定負債	5,990	6,050	5,957	6,387	6,462	6,507	6,283	6,543	6,948	—
負債の部合計	12,480	12,899	12,894	14,114	14,384	14,284	13,315	13,827	14,430	—
株主資本	14,130	14,426	14,474	15,092	15,152	16,394	16,893	17,454	17,981	—
非支配持分	630	651	663	685	701	719	762	778	36	—
純資産の部合計	14,815	15,322	15,503	16,078	16,239	17,217	17,926	17,947	17,731	—
負債及び純資産合計	27,295	28,222	28,398	30,192	30,624	31,502	31,241	31,775	32,161	—
自己資本比率	52.0%	52.0%	52.3%	51.0%	50.7%	52.4%	54.9%	54.0%	55.0%	—
従業員数	2,028		2,005		2,026		2,055		—	

	2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期(予)
1株あたり配当金	—	5.0	—	6.0	—	7.0	—	14.0	—	14.0
配当性向(%)	45.2		16.2		9.1		12.7		13.0	

25

連結キャッシュフロー推移



(百万円)

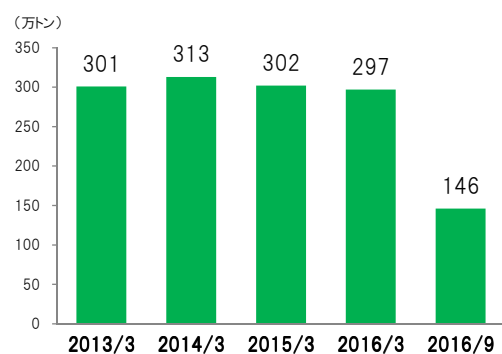
	2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業活動によるCF	1,052	1,917	1,157	2,137	954	2,424	1,116	2,232	894	—
投資活動によるCF	▲514	▲1,054	▲672	▲1,500	▲676	▲1,740	▲226	▲1,698	▲1,234	—
財務活動によるCF	▲351	▲571	▲215	89	▲96	0	▲435	▲527	311	—
現金同等物増減	186	291	269	725	181	684	415	6	▲27	—
現金同等物 期首残高	1,724	1,724	2,015	2,015	2,741	2,741	3,425	3,425	3,051	—
現金同等物残高	1,910	2,015	2,284	2,741	2,922	3,425	3,460	3,051	3,024	—
設備投資費	416	1,076	652	1,840	927	2,239	450	2,219	1,200	—
減価償却費	640	1,243	588	1,212	625	1,285	598	1,267	702	—

26

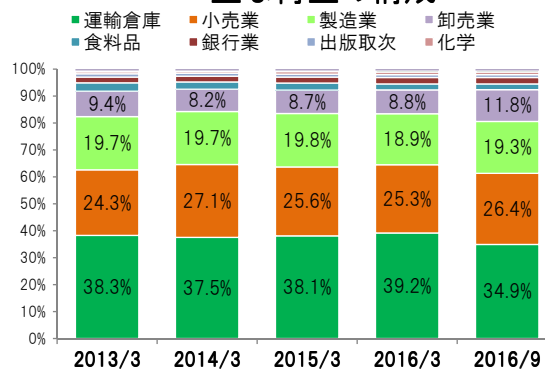
その他参考データ



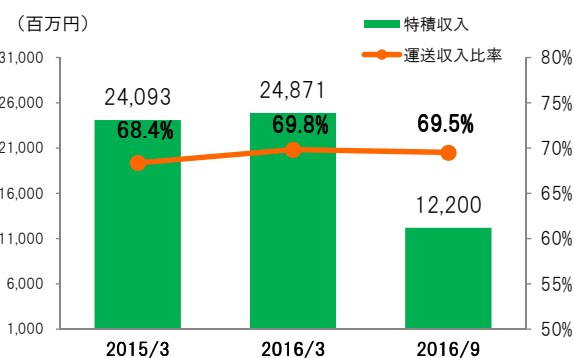
貨物輸送量



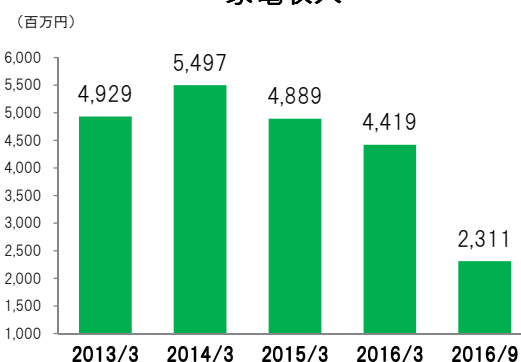
主な荷主の構成



特積収入

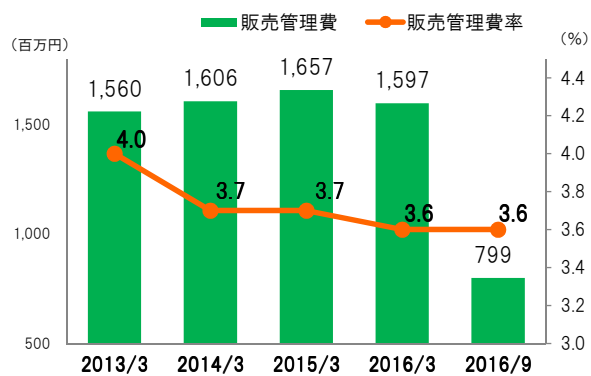


家電収入

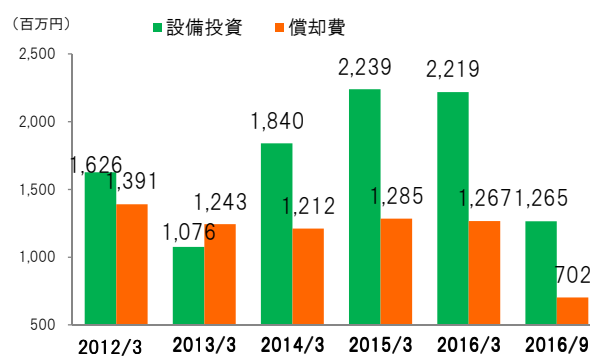


27

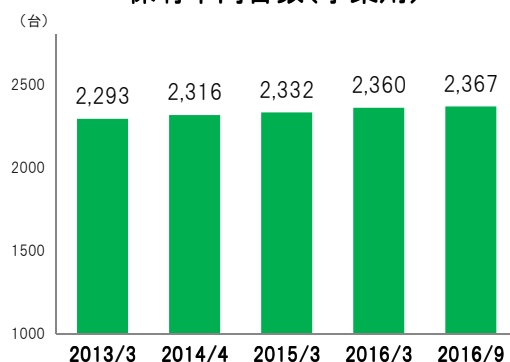
販売管理費



設備投資と減価償却費



保有車両台数(事業用)



参考資料集

会社名	株式会社エスライン(S LINE CO.,LTD.)
代表取締役社長	山口 嘉彦
本社所在地	〒501-6013 岐阜県羽島郡岐南町平成4丁目68番地
設立	1947年(昭和22年)3月10日
資本金	19億38百万円
発行済株式総数	10,211,884株
主な事業内容	物流関連事業 不動産関連事業 その他事業
子会社	23社
拠点数	105拠点 東日本 26拠点 中部 49拠点 西日本 30拠点
社員数(連結)	2,055名 (外、平均臨時雇用者数:1,370名)
車両数(連結)	2,360台(事業用)



代表取締役社長
山口 嘉彦



本社社屋

経営の基本理念

社は「和」を中心に運命共同体の一員として職務に応じ企業の運営を分担する

基本理念

【和】

社は「和」のもと、労使一体の全員経営により、輸送の使命を果たして、みんなの幸せを追求します。

【法の遵守】

国内の法又は関係法令及びその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、社会から信頼される企業をめざします。

【社会貢献】

地域に密着した企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献します。

【環境と顧客の優先】

環境に配慮した物流企画の提案と輸送品質の向上に努め、お客さまに満足していただける物流を提供します。

【全員参加】

全社員が職務に応じて企業の運営を分担する全員経営により、対話と活力に満ちた企業風土をつくれます。

社訓

- みどりの和をまわし、一歩前進 ●



- ・お互いがお互いに教え教えられる教育の場
- ・働き甲斐・生き甲斐を求める人づくり

エスはスピード(迅速)、サービス(親切)、セーフティー(確実)のスリーエスのモットーを表し、ラインは、日本列島の道路を表し、全国一貫輸送体制の思いから名づけられました。

社章		スピード(迅速)、サービス(親切)、セーフティー(確実)のスリーエスのモットーを表し、日本列島を一本の線(Line)にまとめ、全国一貫輸送体制をシンボライズしたものです。とくにLineは道路を表し、全国どこへでも行くことを意味し、S Lineのあとの文字は、その会社の本拠地を示しております。
商標		1. スリーエスのモットーのように迅速、親切、確実である 2. 軒から軒へ小回りが利く 3. 一団となって団結している 4. 長距離を定期的に飛ぶ 信頼され、愛されるツバメをデザイン化したこのマークは登録商標になっております。
サービスマーク		スリーエス(スピード・サービス・セーフティー)のモットーを3色で表し、それぞれの色には、次の意味が込められております。 黄緑:スピード=活力 オレンジ:サービス=愛情 緑(コーポレートカラー):セーフティー=健全 多様化・高度化する新しい時代のお客様のニーズに応じて、スリーエスをモットーに労使が力を合わせて物流サービスを提供し、みんな(お客様・家族)の幸せを追求していく姿勢を表現しております。

32

沿革 (エスラインの誕生)

エスラインは岐阜市内の荷物取扱店からスタートしました。

大正から昭和の初め頃の輸送手段は馬車によるものが主体でした。

1914年(大正3年)当時、二代目山口軍治社長の祖母の里が岐阜市金竜町で馬車休憩所兼宿を営んでおり、白鳥・郡上・関・美濃など岐阜郡部からの荷物を馬車、荷車などにより岐阜市に運んできた人達はここに立ち寄り馬を休めたり、休憩、宿泊をしていました。

同宿が往来者で賑わい、物資の受け渡しが行われるのを見た、山口友吉は、同宿にて生活物資の運送取り扱いを始め、順次拡大を図っていきました。

1928年(昭和3年)昭和初期には馬車に代わる輸送手段として日本にもトラックが輸入されるようになったため、山口友吉はこれをいち早く導入、荷物を取扱うだけの運送取扱店にとどまらず、自らもトラックによる荷物の集荷・配達を行うなど、当社の母体となる(株)山口運送店をスタートさせました。



【岐阜トラック運輸株式会社】が創立されたのは1938年(昭和13年)ですが、陸運統制令や終戦により統合、分離を経て1947年(昭和22年)3月、初代山口軍治社長のもと資本金18万円、社員67名、車両30台でスタートしました。

1958年(昭和33年)3月、初代山口軍治社長が急逝し、二代目山口軍治社長が29歳の若さで社長に就任しました。二代目山口軍治社長の若さと行動力と革新的な発想力で1979年(昭和54年)8月には売上100億を超えるまでに発展し、翌1980年(昭和55年)4月名古屋証券取引所市場第二部へ株式上場するまでに至りました。



運送店主 山口友吉



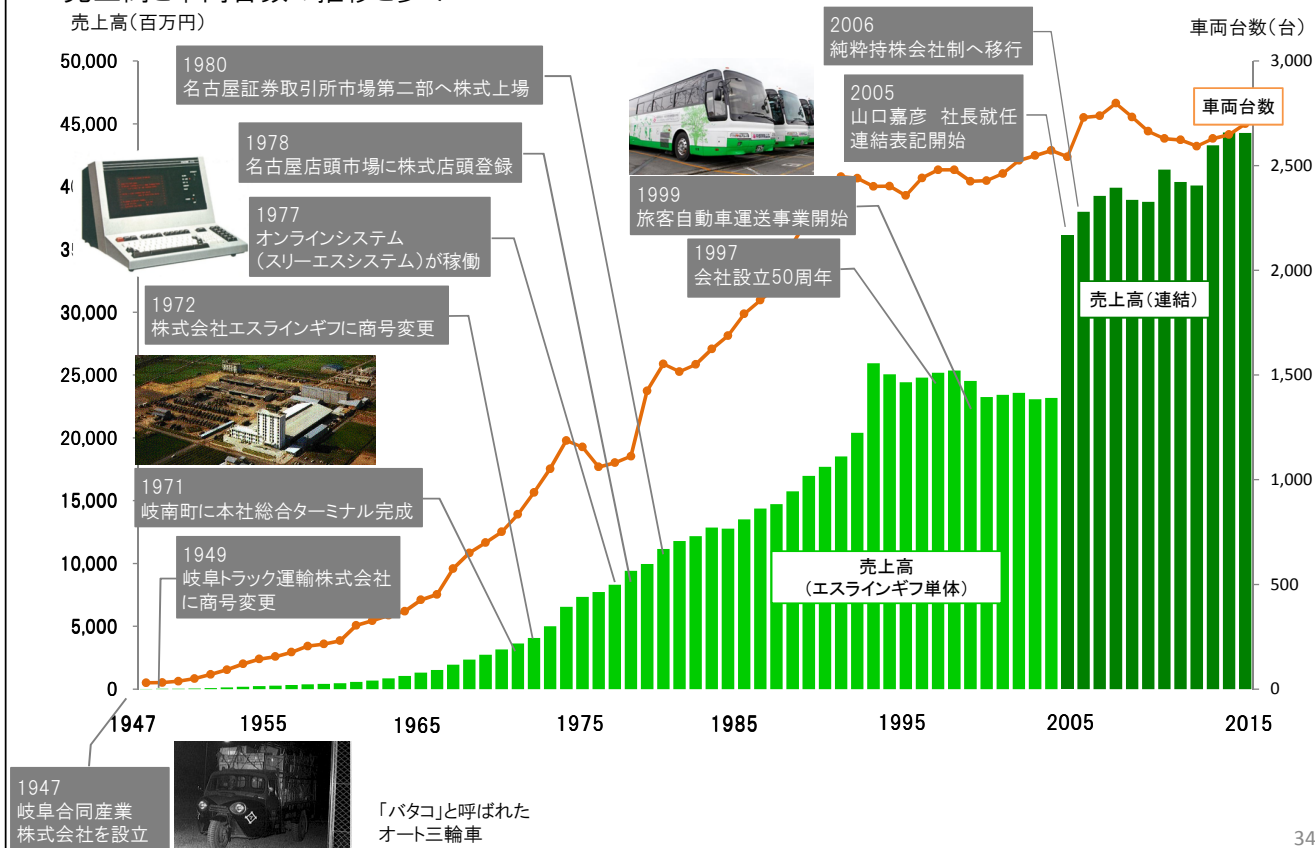
初代社長 山口軍治



二代目社長 山口軍治

33

■売上高と車両台数の推移と歩み

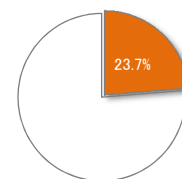


エスライングループの注力項目①

お客様のニーズに合わせて物流をカスタマイズしたトータルサポート。

入庫から商品在庫管理・出荷・発送までを情報管理し、小規模な出荷支援から、大規模な物流システムの企画・構築・運営までお客様ごとにカスタマイズした総合物流サービスをご提供しています。

グループ全体の売上に対する
お客様専用便が占める割合



それぞれの商品に適した輸送を選択します。小口と貸切を組み合わせて効率化し、コスト削減を実現します。また、集荷から配送まで、お客様の貨物を追跡管理します。

輸送
管理

お客様からの配送予定情報をもとに、送り状・荷札の作成、商品のピッキング作業、梱包、配車に至るまで、一貫して管理し、お客様の業務をサポートします。

出庫
管理

スピード
Service
Safety
トータル
サポート

入庫
管理

小口・貸切便での入庫からコンテナのデバンニングに至るまで、さまざまな入庫形態に対応します。また、入庫時には、さまざまな検品作業にも対応し、商品販売等の機会損失を未然に防ぎます。

受注情報を基に、配送先別仕分けを行います。商品へのタグ付けやラベル貼り等の物流加工サービスも行います。

仕分け
検品

在庫
管理

多様な商品に適した保管方法を選択し、ご提案します。ロケーション管理を行い、仕分け、検品、出庫など次工程の作業がスムーズに行えるように保管します。インターネット経由で在庫状況をリアルタイムに照会することも可能です。

BtoB市場で培われた技術とノウハウで「ホームサービス」も充実化。

個人のお客様向けにも、多種多様なサービスの充実を図っています。

■ 大型家具・家電設置・回収

各種資格を有した当社の専門のスタッフが、エアコン工事、アンテナ取付、温風便座取付、給湯器取付、その他、各種家電工事などを行います。



■ 引っ越しサービス

ご家族、単身の方の引っ越しをお引き受けしております。



■ トランクルーム

タイヤ、バイク、シーズンオフのアウトドア商品、ベビー用品など、今使わないが大切に保管したい様々なものを専用倉庫で大切に保管します。ご自宅までの集荷・配達も行います。



■ 産地直送ギフト品の取扱い

お中元、お歳暮をはじめ、その他贈答品として、つばめ便名店街「産地直送ギフト品」を販売しています。



36

特殊な輸送はそれぞれにあわせた専門知識と専門技術で対応。

有資格者や専用の道具を取り揃え、特殊輸送サービスを提供します。

■ 重量物輸送

大型機械の移動やレイアウト変更の要請に対して、「油圧ジャッキ」「チェーンブロック」「ワイヤー」「ウレタンローラ」をはじめとした特殊用具と経験と実績を持った社員が用途に合わせて、『安全』『確実』『迅速』に作業いたします。

作業に当たり、訓練や教育を受けた有資格者が「墨出し」「芯出し」「レベル出し」のみならず、「解体」「梱包」「組み付け」まできめ細かいサービスを提供します。



■ 貴重品・美術品輸送

店舗の売上金などの現金や、高額商品・美術品・社内間の重要な書類などの貴重品を、警備業法に基づく資格を持った社員が、安全・確実に輸送を行います。定期的なルート配送からスポット輸送まで、お客様のご要望に応じたきめ細かい輸送サービスを提供します。



■ 機密文書「オンサイト」シュレッダーサービス

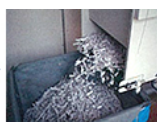
JQAより日本初「RDVシステム（オンサイト処理）」におけるリサイクル処理センター安全対策認定を取得しています。セキュリティのプロフェッショナルが出張し、お客様の目の前で裁断処理を行いますので、ご安心していただけます。



電話で受付



RDVシュレッダー車出勤



その場で裁断処理



処理工場へ



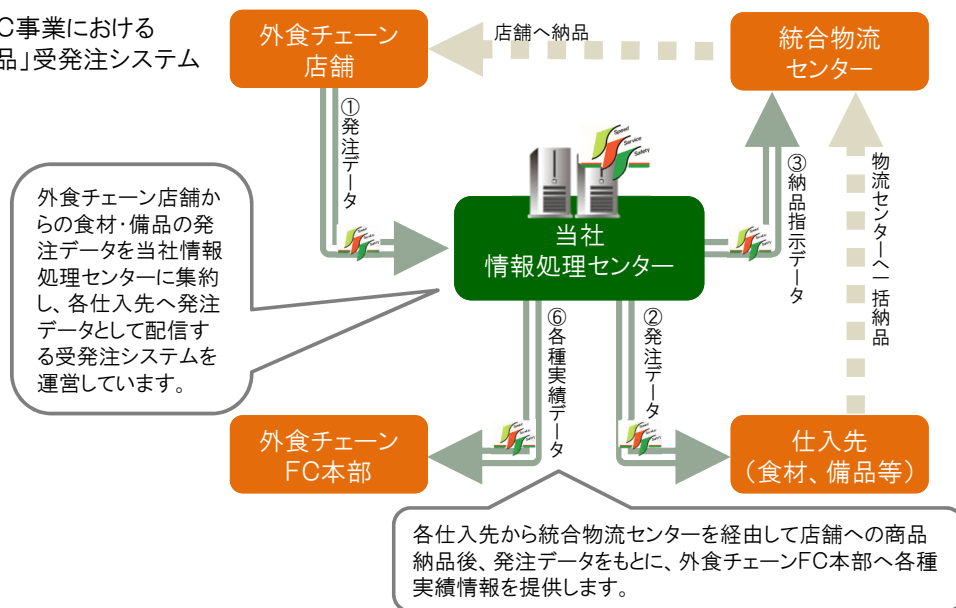
リサイクル製品へ

37

「物流情報システムサービス」の提供。

物流現場に熟知した技術者が、業種業態を問わず、様々なお客様の物流システム化を、24時間365日の運用体制で企画・構築・運用までトータルサポートします。

例) 外食FC事業における「食材・備品」受発注システム

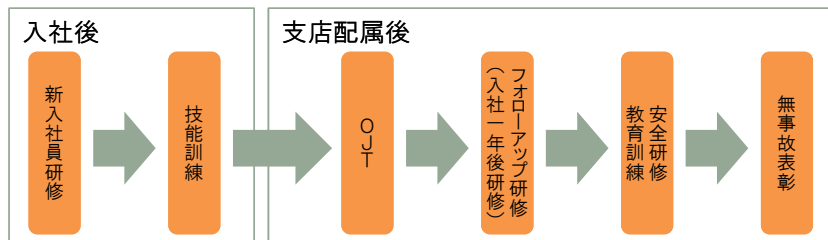


若手ドライバーの育成。

トラック運送業界ではドライバーの高齢化が加速しており、弊社においても若手ドライバーの採用・育成は課題の1つです。

■ ドライバー教育制度

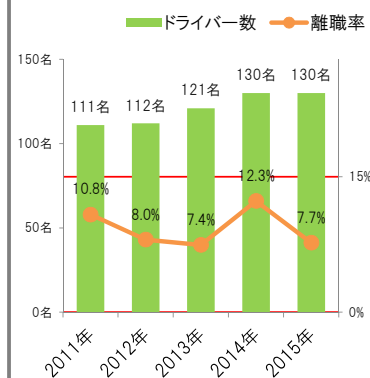
入社後3～4ヶ月の間、安全教育(安全運転・安全作業)を含めた実務教育、車両点検、整備の研修等の技能訓練を本社で行った後、配属された支店にて引き続きOJTなどの研修を行います。



■ 資格取得サポート制度

中型・大型・牽引免許の取得のために「自動車運転免許取得推進制度」を設け、取得推進、労働意欲の向上、業務の効率化を目指しております。

若手(29歳以下)ドライバーの推移と離職率



29歳以下の若手ドライバーの離職率は、業界平均の15%を下回っております。

働きやすい職場づくり。

人手不足が常態化する中で、健全な成長を図る為にも、労働環境の整備・改善は急務です。

- **労務管理の見直し**
時間管理方法・勤務体制の見直しを実施しています。
- **時間外労働の削減**
手待ち時間の短縮化、ITの活用による待機時間の効率化など長時間労働の削減を図っています。
- **ドライバーの健康管理**
夜間乗務のドライバーには、6か月に1回健康診断の受診を義務化しています。
又、乗務前・乗務後には、対面点呼を行い、アルコール検知器により酒気帯び検査を行っています。
- **長距離ドライバーの管理**
ある一定の長距離運行については、十分な休養が取れるシフト勤務体制と、2人体制での運行を徹底しています。
- **職場環境の改善**
ダイバーシティの推進と有給休暇消化の奨励を行い、女性にとっても働きやすい環境になるよう整備を急いでいます。
- **コミュニケーションの充実化**
グループ会社間の組織の横断による人事交流を活性化させ、エスライングループの組織強化を図ります。

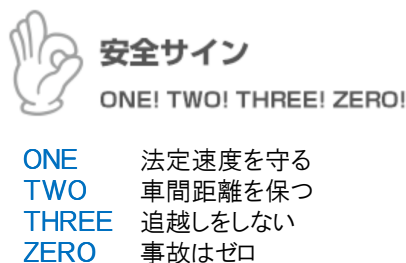


40

安全への取り組み。- ①

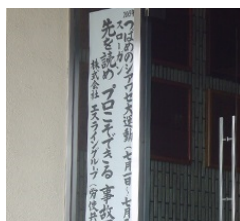
社員が力を合わせて、日本一事故の少ない会社になります。

- 社内「安全三原則」の徹底化

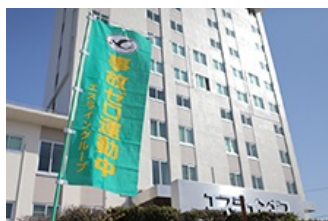


安全サインは昭和43年に制定されてから40年以上、無事故の誓いとして受け継がれています。

- 年2回の月間無事故運動と安全研修・教育訓練の実施



7月つばめシアワセ大運動



12月年末無事故と大増収運動



安全研修でのKY(危険予知)教育



教育訓練(寺院での精神修行)

41

安全への取り組み。- ②

■ 無事故表彰制度

永年無事故を継続し、他の社員の模範となるドライバーを讃えるため昭和42年4月に「永年無事故功労者招待旅行制度」を制定し、表彰を行っております。これまで本制度によって、延べ1,200人以上のドライバーが、招待旅行を授与されました。



10年無事故／北海道・九州・シンガポールのいずれか
20年無事故／ハワイ
30年無事故／オーストラリア
40年無事故／ヨーロッパ

■ 運転適性診断

特定運転者(初任運転者・適齢運転者・事故惹起運転者)に対する適性診断の実施を徹底化しています。



■ 夜間巡回パトロールの実施

毎月、指導員による高速道路での夜間巡回パトロールを行い「スピード・車間保持」の実態を確認しています。

■ 眠気検知システムの導入

富士通株式会社との眠気検知機「FEELytm(フィーリズム)*」の開発協力。本年より、35台を導入。
*FEELytmは、富士通研究所が開発した独自のアルゴリズムにてドライバーの耳に装着したセンサーから取得した脈波情報などからドライバーの眠気状態を検知し、本人および運行管理者に通知することができます。また、デジタコなどの車載機と接続し、運行管理システムと連携させることで、運行管理者がドライバーの状態をリアルタイムに確認することができ、客観的なデータに基づいて最適な指示を出すことができるようになります。



地球温暖化の抑制、CO2の削減など環境への取り組み。

事業活動が環境に与える影響を認識し、環境を意識した取り組みをグループ全体で行っています。

■ 「環境方針」の設定

環境方針

基本理念

エスライングループは、社員一人ひとりが地球市民の一員であることを自覚するとともに、地球環境の改善が重要な課題であることを認識し、以下の活動のもと、環境目的を設定し、継続的に改善していきます。

活動方針

- ・車両の排気ガスを抑制し、CO2、NOXなど地球環境に負荷を与える物質の排出削減に努めます。
- ・燃料、電気、紙の無駄な使用をせず、省資源、省エネルギーに努めます。
- ・廃棄物の削減と資源のリサイクルに努めます。
- ・環境に配慮した資材購入を行います。
- ・法規制を遵守するとともに、業界方針なども積極的に実行します。

■ デジタルタコグラフの活用

- ・経済運転によるCO2削減
- ・安全運転による車両事故防止
- ・ドライバーの意識改善



などを目的として、デジタルタコグラフを全ての車両に取り付け、自社基準による経済運転と安全運転の解析と指導を行います。

■ エコドライブコンテストの実施

■ 環境配慮型新車両の積極導入

NOx対応の尿素システム搭載の大型車両や省エネ法に基づいた「低燃費で低排出ガス」のトップランナー基準車両を選択しています。

■ 3Rの推進(3R:Reduce=廃棄物を減らす、Reuse=何度も繰り返して使う、Recycle=再生利用)

- ・車両整備時や廃車車両から発生するフロンガスの回収
- ・環境負荷低減に努める事業者から、環境に配慮した資材購入をすすめる「グリーン購入」
- ・再利用可能な「エコバンド」の利用によるプラスチックゴミの削減 など



車種	走行距離	燃料消費	CO2排出	NOx排出	尿素消費	燃費率	アイドリング時間	急加速	急減速	速度超過	急発進
1	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
3	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
4	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
5	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
6	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
7	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
8	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
9	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
10	100	10.0	100	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0



【お問い合わせ先】 株式会社エスライン 経営企画部
TEL:058-246-6749 FAX:058-240-4850
E-mail: keieikikaku@sline.co.jp

【免責事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。